

# きずな(絆) No.1 発行:全日本民医連 震災対策本部

\*全日本民医連として、新しくニュース「きずな(絆)」を創刊します。「全日本民医連支援ニュース」では、引き続き最新の指示や留意事項を発信、「きずな」では各地の連帯行動などについて紹介していきます。

## 宮城の仲間、被災者のもとへ！第一次支援隊が語る

### ■「これは国を復興させるたたかい」山梨:甲府共立病院



16日午後6時すぎ、支援団第一陣が帰ってきました。「現地の職員は職場の仲間や家族が犠牲になるなど困難な中で歯を食いしばって不眠不休で現地の医療を支えている。これはこの国を復興させるたたかい」(支援医師)。「たいへんだったが、やりきったという思いはない。まだやらなければならないことがたくさんある」(支援職員)。福島県内で震災にあい、その後ボランティアとして活動を続けていた福島医大6年生Sさん(奨学生)も支援団と合流、いっしょに甲府にかえってきました。

(「県連メールニュース」号外 山梨民医連事務局 3/17)

### ■「すべてトリアージ診療」東京:東葛病院

「現地の受け入れ態勢が十分でなく混乱を極めた。すべてトリアージ診療。脱水、痰づまりの患者さんに吸痰機が使えなく、シリンジを使って痰を引いたり、ゴムボートのポンプを使っての吸痰、中には直接カテーテルを口で吸った家族も……」(医師)。「朝運ばれて来て、午後には黒のタグが付けられた患者さんが半分、残り半分は入院」(事務)など被災地の凄まじい現状を聞きました。

(「社保・平和・地域活動ニュース」東葛病院社保・平和活動委員会3/17)



### ■「辺野古支援から、一路宮城へ」岡山:県連

11日、辺野古支援で坂総合病院院長今田先生の携帯で大地震を知りました。帰って14日、今度は支援物資を届ける支援行動のため宮城をめざしました。東北中央道で宮城入りし、仙台南インターで降りるまで言葉もありませんでした。人の姿も家屋も皆無です。渋滞も「坂総合病院の支援です」というと最優先でした。14時間半かかってようやく到着、患者さんでごったがえしていました。

(「東日本震災支援ニュース」No. 4 岡山県連東日本震災支援対策本部3/16)



#### <おしらせ>

- 支援ニュースや地元紙報道などは[info@min-iren.gr.jp](mailto:info@min-iren.gr.jp)(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。
- 震災関連連絡およびニュースは、全日本民医連HPにてご確認ください。すみやかに更新作業をしています。